Co-Creation+

2024.4–2025.3

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構
2024年度 研究・連携活動事例集

はじめに

これからの社会において、芸術は何の役に立てるのか？ 未来社会に必要とされる芸術大学とは？ 振り返れば、このような問いかけから成安造形大学 未来社会デザイン共創機構は生み出されました。私たちは、芸術研究と社会を結ぶことを目的とした特色ある研究機関です。本機構には「附属近江学研究所」、「キャンパスが美術館」、「デジタルクリエーションオープンラボ」が含まれていますが、この事例集では直轄するプロジェクト等の研究・連携活動に焦点を当て、2024年度の活動をコンパクトに紹介します。

今日、芸術は世界共通の社会制度であり、平和的なインフラとして定着しています。芸術はそれぞれの歴史や文化の再確認を促すとともに、新しい美意識や価値観をカタチにして具体的かつ鮮やかに提示することができます。また、そこでは個性や多様性が最大限に尊重されます。多くの良き作品は、個人の感覚の自由と解放性から生まれるからです。このように芸術は素晴らしい機能を持つ今日的で重要な分野なのです。

しかし、社会は芸術という分野を理解し、十分使いこなしているでしょうか？ その点において本機構の担う役割は小さくありません。芸術分野の専門性を活かして、誠意と熱意を持って未来社会の構想（デザイン）に参画すること。能動的に川上から課題を共有し、新しい価値を創造すること。つまり、より良き社会の実現に向けて主体的に考え、行動し、提案するクリエイター像を顕在化することが私たちの役割なのです。そして、このことが本学が目指す実践的な芸術教育の要であり、その意味において共創プロジェクトや地域貢献・プロジェクト科目／授業が極めて重要であることは言うまでもありません。

2021年4月の本機構の設立後、社会からの期待も日増しに大きくなっており、確かな手応えを実感しています。またそれに伴ってプロジェクトのクオリティも高まっています。独自のユニークな学生支援事業「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）」や「seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）」も好評です。しかし、いまだ着手できていないことも多々あります。今日的な状況を踏まえて、皆様のご協力を得ながら研究領域を深化・拡張させ、さらに成長していきたいと考えています。今後ともご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 機構長
岡田修二

芸術研究と社会を結ぶ、研究機関「未来社会デザイン共創機構」

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構は、学園建学の精神「成安・誠と熱・実践教育」および大学基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」を、今日的条件下で、より力強く実践・展開することを目的として、2021年4月に設立されました。社会との共創により、芸術研究を深化・拡張させ、新たな価値の創造とより良い未来社会の実現を目指します。

設置理念

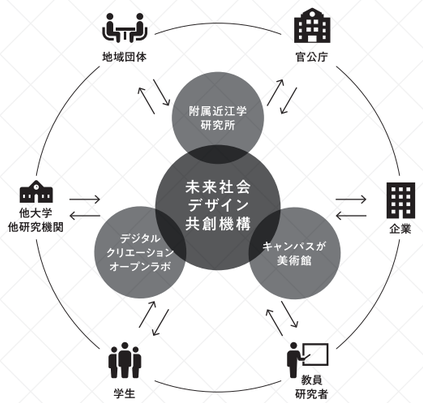
芸術研究と社会を結ぶ、産官学民連携の場を作ります。
主体的な姿勢で社会と共に創造的サイクルを生み出します。
芸術分野がどのように社会へ貢献できるかを、誠意と熱意を持って議論します。

芸術分野と様々な社会テーマの交点を捉え、特色ある今日的芸術研究を推進します。
横断的視点を重視し、新領域や融合領域の創出を推進します。
社会課題の共有により組織的連携を推進し、基礎研究段階からの共創を目指します。
相談案件や研究プロジェクトの舵取りを行い、研究・連携支援の一元的窓口となります。
研究の成果を積極的に社会へ発信することにより、新たな共創を構築します。

未来社会のあり方を考え、人間環境の改善に資する様々な研究の創出を目指します。
こころの豊かさや安らぎの獲得に資する様々な研究の創出を目指します。
優れた芸術の価値を顕在化させ、未来社会のデザインに資する様々な研究の創出を目指します。

学生や教員の研究・制作活動を実践・支援することで学術研究と社会を結び、
社会と共創関係を構築するハブとして機能します。

POINT 1　**各附属機関の活動および大学全体の研究活動を支える土台。**
POINT 2　**研究活動の支援を通して学生および教員・研究者と社会を結ぶ。**
POINT 3　**学内外からの研究活動に関する相談窓口としての機能。**



各附属機関に関する情報はこちらから

キャンパスが美術館 ウェブサイト
https://artcenter.seian.ac.jp

附属近江学研究所 ウェブサイト
https://omigaku.org

デジタルクリエーションオープンラボ（大学ウェブサイト）
https://www.seian.ac.jp/attached/digilab/

未来社会デザイン共創機構では、芸術分野における真摯な教育と研究を通して広く社会に貢献することを目指し、産官学および地域との連携事業や研究助成事業に積極的に取り組んでいます。
本冊子では、2024年度に実施した研究助成事業や産官学および地域との連携事業等の活動事例を、下記の分類に沿ってご紹介します。

［事業分類］
- 研究助成事業
- 共創プロジェクト（受託研究・共同研究・受託事業）
- 地域貢献・プロジェクト科目／授業

- SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金） 4
- seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度） 7
- カタルーニャの文化「サン・ジョルディの日」を伝えるイベント企画 10
- アートで照らす医療と介護の未来プロジェクト 12
- 大津市 子ども・若者支援計画「こどもパブリックコメント」冊子デザイン 13
- 高島市 市民協働のまちづくり推進指針 副読本デザイン 14
- 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」大津市メインビジュアルデザイン 15
- アップサイクルリメイク 16
- 湖西線アートプロジェクト 17
- 共創プロジェクト（受託研究・共同研究・受託事業）紹介 18
- 地域貢献・プロジェクト科目／授業紹介 20

事業分類概要 22

2024年度事業一覧 23

*連携先の名称・教職員の職位・参加学生の学年は2024年度当時の情報です。

成果発表展の様子｜撮影：守屋友樹

SEIANドリームプロジェクト｜学生特別研究助成金

「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）」は、研究活動の活性化を目指して実施している本学独自の研究助成事業です。本学の学生・研究生から、既存の枠にとらわれない独創性豊かな研究や制作テーマを募集し、選ばれたテーマに対して、総額100万円の助成金を提供しています。さらに専門的なアドバイスの提供や外部団体・企業とのマッチングをサポートしています。

2024年度は、前年度に引き続き「作品制作型」と「プロジェクト型」の2つの助成カテゴリーを設け、個人およびグループから合計18件の応募がありました。審査の結果、作品制作型3件、プロジェクト型2件の、計5件のテーマを採択・支援しました。

作品制作型では、衣服を通して内面世界を表現する造形実践や、伝統素材である丹後ちりめんの美術的可能性に迫る探究などが展開されました。プロジェクト型では、地域との交流を重視したマルシェの開催や、公園空間の魅力を再発見する体験型ワークショップの実施など、多様なアプローチによる成果が見られました。

募集チラシ｜デザイン：塩谷啓悟

担当：
未来社会デザイン共創機構

期間：
2024年4月–2025年4月

スケジュール

2024年	
4月	情報公開・募集開始
5月	
6月	募集締め切り
7月	審査・結果発表
8月	支援期間開始
9月	
10月	
11月	
12月	
2025年	
1月	
2月	支援期間終了
3月	報告書・パネル提出
4月	成果発表展開催

1.［作品制作型］｜輪郭が変わりうるほどの激情を衣服で表現する

大宅歩音｜空間デザイン領域4年生

「拡張身体としての衣服」をテーマに、「どこまでが私なのか」という問いを鑑賞者に投げかける作品制作プロジェクトです。多様な自己表現が可能な現代において、揺るがない「私」とは何かを探る試みでもあります。「ニキビはストレスが輪郭に影響する反応」という独自の解釈をもとに、衣服を内なる自我の表現ととらえ、人体の輪郭を侵食するようなフォルムを追求しました。完成した作品《劇刊》は、本学卒業制作展および関連イベントのファッションショー「SEIAN COLLECTION 2025」にて発表しました。

2.［作品制作型］｜彫刻を参考とした衣服が与える拘束性と解放性の研究

坪田秀人｜空間デザイン領域4年生

ファストファッションが主流となった現代において見過ごされがちな「衣服のコンセプト」に着目し、芸術作品としての衣服の可能性を探る作品制作プロジェクトです。自身のトラウマや社会的抑圧を起点に、「束縛」「地獄」「彫刻」をテーマとした作品《冥土 in HELL》を制作。衣服を通して身体の制限と概念表現を追求する作品制作に取り組みました。「SEIAN COLLECTION 2025」での発表では、映像や音響などすべての演出を自ら手がけ、作品の概念性と拘束性を観客に最大限伝えることを目指しました。

3.［作品制作型］｜丹後ちりめんの可能性の追求

勢籏澪那｜美術領域3年生

自身の地元・丹後地方の特産品である「丹後ちりめん」を日本画の支持体として活用する方法を探究した作品制作プロジェクトです。制作にあたり、現地での取材や生産工場の見学を通してちりめんの特性を学び、多様な活用法を実験しました。パネルへの貼り方や絵具の定着方法を何度も検証しながら作品を制作する中で、ちりめん特有のシボが岩絵具の輝きを高める効果があることを発見しました。大学と丹後の2会場で作品を展示し、鑑賞者から多くの意見をいただきました。制作・展示を通して、丹後ちりめんの美術分野での活用可能性を示しました。

4.［プロジェクト型］｜成安マルシェプロジェクト

水田有咲｜総合領域4年生 **山﨑宥花**｜総合領域4年生

地域との交流の活性化を目指し、イベント「成安マルシェ」を企画・開催したプロジェクトです。来場者だけでなく活動に関わるすべての人の満足度を重視し、学内で募った運営メンバーのやりたいことを反映しながら活動しました。イベントコンセプト「広がるわ・わ・わ」には「和む」「輪になる」「話が生まれる」といった意味が込められています。来場者の滞在時間を延ばし、体験価値を感じてもらう仕掛けとして、露店やワークショップ、スタンプラリーなど多彩な企画を展開しました。来場者は約300名、うち8割が学外からの参加で、交流の場として成功を収めました。活動記録を発表した卒業制作展では優秀賞を受賞しました。

5.［プロジェクト型］｜びわこ文化公園の魅力の控えめな訴求方法とは

中村文乃｜情報デザイン領域4年生

日常に潜む「お気に入りの場所の発見」をテーマに、観察の視点を広げる体験型ワークショップを企画・実施したプロジェクトです。大津市のびわこ文化公園にて、新たな観察視点を提案するワークショップ「Framing Workshop」を開催。形の多様性を体感するワーク、さまざまな形で景色を切り取るフレーミングシートを使った撮影、写真を通した交流の3ステップを展開しました。自身の感性で景色を切り取り、他者の感性にも触れることで、身近な風景の新しい価値を見出す機会を創出することができました。卒業制作展にて、本ワークショップを含む活動記録を発表しました。

成果発表展の様子｜撮影：守屋友樹

支援プロジェクトのワークショップの様子

seianチャレンジ｜学生が取り組む地域活動支援制度

本学の基本理念（教育理念）である「芸術による社会への貢献」を実現するため、学生個人および団体による自主的かつ主体的な地域活動を支援する「seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）」を実施しています。申請された地域活動1件ごとに、最大5万円の助成金と専門的なアドバイスを提供し、学生による地域社会への貢献を後押ししています。
2024年度は、6件のプロジェクトを採択・支援しました。生活・環境・防災・福祉・食といった多様なテーマに対し、学生自身の関心や問題意識に基づく取り組みが展開されました。実施にあたり、未来社会デザイン共創機構の職員が一部プロジェクトに伴走し、運営面でのサポートも行いました。また、活動の中には次年度以降への継続的な展開が見込まれるものもあり、学生主体のアクションが新たな学びや地域との関係構築へ発展しています。

担当：
未来社会デザイン共創機構

期間：
2024年7月–2025年4月

スケジュール

2024年	
4月	
5月	
6月	
7月	情報公開・受付開始
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	受付終了
2025年	
1月	
2月	支援期間終了
3月	報告書・パネル提出
4月	成果発表展開催

1. 暮らしの考察、暮らしの記録

清水あかり | 地域実践領域4年生

「振りまわされる暮らし」をテーマに作品制作に取り組むプロジェクトです。一時的に経験した一人暮らしにおいて、慣れない環境に振りまわされながらも充実感を感じたことをきっかけに「振りまわされること」が幸福につながるのではないかと考え、研究を始めました。高校時代から取り組んでいたろうけつ染めにも同様の感覚があることに気づき、一人暮らしの記録をろうけつ染めで表現しました。制作した作品は地域の古民家に展示したほか、卒業制作展でも発表し、優秀賞を受賞しました。

2. 京都府宇治市に大量発生するトビケラについて

［ときめきトビケラプ］

代表：**山本 桜** | 総合領域3年生

京都府宇治市に大量発生する虫「トビケラ」の魅力を伝えるプロジェクトです。不快被害の声が多く上がるものの、実は川を綺麗にする役割を持つトビケラについて現地で調査し、成果を冊子にまとめました。また、多くの人に親しんでもらうためにトビケラを可愛くデフォルメしたLINEスタンプやフィギュア、クリアカード、ステッカーなどのグッズも制作。環境啓発イベント「宇治環境フェスタ」にて制作物を発表し、地域の方々から貴重な意見や感想をいただき、トビケラを知らない人がグッズを見て楽しむ様子もみられました。

3. 滋賀県防災の日のためのワークショップ

［BOSSA & ESCAPE! to safety］

代表：**杉本光莉** | 美術領域3年生

防災をテーマに、滋賀県防災危機管理局と連携してワークショップを企画・実施したプロジェクトです。防災を身近に感じられるカードゲーム《BOSSA》と、避難所での課題を題材としたボードゲーム《ESCAPE! to safety》の2種を制作しました。高校生などの若年層を対象にしたワークショップでは、ゲームを通して活発な議論が交わされました。参加者からは「楽しみながら学べた」という声も多く、防災意識の向上を図る機会となりました。

杉本光莉 | 美術領域3年生

大学生の防災意識の低さに着目し、防災について考えるきっかけを提供することで意識向上を図る取り組みを行いました。私が関わった《BOSSA》は、参加者に「こんな状況になったらどうする？」と問いかける形式のゲームにしたことで、参加者が主体的にアイデアを出し、楽しみながら防災について話し合う様子が見られました。また、滋賀県庁防災危機管理局を見学し、災害対策の最前線でどのような取り組みが行われているのかを学びました。この活動を経て、自分自身もこれまで以上に防災について深く考えるようになり、貴重な学びの機会を得られました。

4. 多世代との筆談式対話型鑑賞

高橋七生 | 美術領域2年生

多世代との対話を通して、芸大生の制作課題を見つめ直すことを目的としたプロジェクトです。制作の悩みやフラストレーションの解消を目指し、筆談式の対話型鑑賞を実施・検証しました。学外の福祉施設やカフェを会場に対話型鑑賞プログラムを実施。質問が書かれたサイコロなどの対話を促すツールも制作し、リラックスできる空間づくりを意識しました。多様な参加者との対話を通して、自身の作家性を見つめ直しました。

5. ベンチを作成し、学内に設置するワークショップ

［ベンチ24］

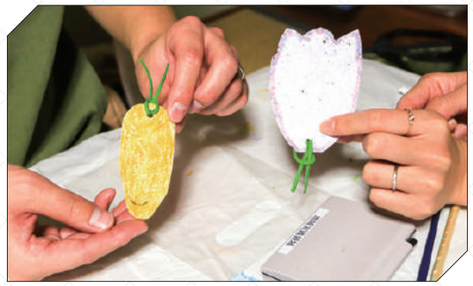
代表：**杉田 柾** | 空間デザイン領域2年生

地域住民と学生がともに考え、交流を生むベンチを制作するプロジェクトです。地域の方々が多く出入りする本学のコミュニティスペース「結」にアンケートを設置し、寄せられた意見をもとにベンチのプランを考えました。「大学の自然を感じられるベンチが欲しい」という意見が多数寄せられたことから、空が見えるデザインコンセプトを採用しプランニング。学生と地域住民の距離が近づき、交流が生まれるきっかけとなることを目指して制作しました。

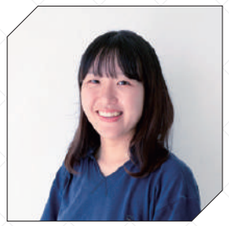
6. べじたぶるあーと

［ベジっ湖］

代表：**長﨑由侑** | 地域実践領域2年生



社会課題となっている食材廃棄問題にアートの視点から向き合うプロジェクトです。美大生ならではの発想で食材に親しむきっかけを作りたいと思い、ワークショップを企画しました。お米の籾殻などを素材に和紙の栞を作り、規格外野菜を活用したスタンプとインクで自由に彩る内容です。ワークショップには子どもから大人まで35名が参加し、多世代の関心を集めました。アンケートでは活動への賛同の声をいただき、食材の大切さを伝える新しい試みとして評価されました。



長﨑由侑 | 地域実践領域2年生

この活動は、これまで学んできたことや、自分たちの得意なことを最大限活かす機会となりました。ワークショップの企画から運営までのすべてを行うことは初めてだったため、活動を通してスケジュール管理や企画の組み立て方など多くの知識やスキルを得ることができました。当日は多くの方に新しい視点で野菜に触れていただき、学びのきっかけをつくることができたと感じております。今回の学びを活かし、さらに活動を広げていきたいです。

集合写真

カタルーニャの文化「サン・ジョルディの日」を伝えるイベント企画

カタルーニャ州政府日本事務所、本学客員教授と卒業生が中心となって活動する「team ViVida」と連携し、カタルーニャの文化「サン・ジョルディの日」を伝えるイベントの企画立案やコンテンツデザインに取り組みました。カタルーニャ州では、4月23日は大切な人に本とバラを贈る「サン・ジョルディの日」として親しまれています。その文化を日本でも直感的に体験できるよう、本学のコミュニティスペース「結」にてイベントを開催しました。

学生たちは、表紙を隠して贈り手のメッセージのみを見て本を選ぶ「ブラインドブックス」のワークショップを企画。併せて「サン・ジョルディの日」の伝説に登場するドラゴンのイラストパネルを設置し、来場者がうろこ型のカードに感想を綴って貼り付けることでドラゴンがうろこをまとう演出を施しました。他にも、紙芝居の読み聞かせや「team ViVida」によるパネル展示も実施。併設のカフェテリア「結」では、カタルーニャ料理を再現した特別メニューも提供されました。アートの力や学生の発想力を通して、新たな国際交流のきっかけを創出する機会となりました。

担当：
由井真波 客員教授
未来社会デザイン共創機構

期間：
2024年4月–2024年5月

連携先：
カタルーニャ州政府日本事務所／
team ViVida

参加領域：
総合／イラストレーション／
情報デザイン

参加人数：
4名

参加学生：
山本 桜（総合領域3年生）、
井上歩南
（イラストレーション領域3年生）、
竹谷茉弥
（イラストレーション領域3年生）、
下西優太（情報デザイン領域3年生）

team ViVidaによるパネル展示

ドラゴンのイラストパネル

ブラインドブックス

カフェテリア「結」コラボランチ

山本 桜 | 総合領域3年生

イベント企画に向けてカタルーニャ州政府のモニカ・カステヤーさんと意見交換を重ねました。その中でキャラクターやイラストを用いたデザインは日本特有のもので、カタルーニャではあまり見られないことを知りました。今回のイラストを活用したさまざまなコンテンツは日本ならではの方法でアプローチできたと思います。実施期間中、学生や地域の方が会場で配布したバラを持って歩いているのを見かけ、多くの方に「サン・ジョルディの日」を発信できたと実感しました。

井上歩南 | イラストレーション領域3年生

コンテンツデザインの過程で、モニカ・カステヤーさんに私のイラストを喜んでもらえたことで、海を越えても私のイラストを受け入れてもらえることを実感し、自信につながりました。特に力を入れたイラストパネルの展示では、日を追うごとにメッセージが綴られたうろこによりドラゴンが彩られていきました。コミュニティスペース「結」に集う人々がパネルを通してひとつになるように感じ、感動しました。

ラジオ収録の様子

アートで照らす医療と介護の未来プロジェクト

琵琶湖大橋病院グループ（医療法人弘英会）の若手チーム「未来エンジン工場」と連携し、医療や介護の現場と社会の新たなつながり方を探る実践的プロジェクトに取り組みました。4月に開催された「アートで照らす医療と介護の未来ワークショップ」では、病院職員と学生が協働し、医療・介護にまつわる課題や可能性について対話を重ねました。ワークショップの中では、院内でのマルシェ、参加型ワークショップ、医療・介護従事者の声を届けるラジオという3つのプロジェクト案が提案されました。

その後、病院グループ内での協議を経て、音声コンテンツ『メディカルデンパ』を制作することが決定。学生たちは職員へのインタビュー、番組構成、収録、音声編集までを担当し、仕事への思いや誇り、日々の葛藤など、現場のリアルを伝える音声コンテンツを制作しました。完成した番組は院内外に向けて配信され、聞き手に医療・介護従事者の人柄や現場の温度感を届ける試みとなりました。

この取り組みは、医療・介護現場と社会の距離を少しでも近づけるとともに、学生にとっても実在する課題に向き合いながら創造的に関わる貴重な学びの場となりました。

担当：
田口真太郎 講師
柴﨑寛子 非常勤講師
未来社会デザイン共創機構

期間：
2024年4月–2025年3月

連携先：
琵琶湖大橋病院グループ
（医療法人弘英会）

参加領域：
総合／イラストレーション／
空間デザイン

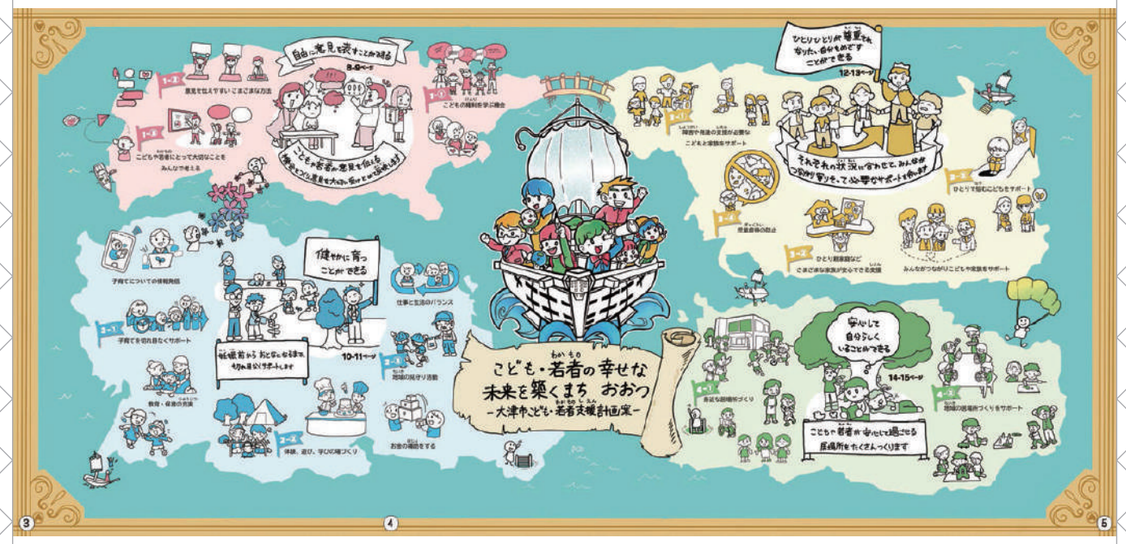
参加人数：
5名

ワークショップの様子

集合写真 医療法人弘英会「緑の癒」にて

『メディカルデンパ』メインビジュアル

『メディカルデンパ』
視聴ページ



「こどもパブリックコメント」冊子・計画本編採用イラストマップ

大津市 子ども・若者支援計画
「こどもパブリックコメント」冊子デザイン

次期「大津市子ども・若者支援計画」（2025–2029年度）の策定にあたり、子ども・若者自身が施策への関心を持ち、自らの意見を伝えられるよう支援することを目的に大津市子ども未来局 子ども・若者政策課と連携し、「こどもパブリックコメント」冊子の企画・デザインに取り組みました。

本冊子では、300件を超える支援施策を視覚的に整理し、4つの基本方針に沿ってイラストマップやアイコンで紹介。難解な用語にはふりがなややさしい日本語を添え、子どもが理解しやすい構成にしました。さらに、自由記述だけでなく選択形式の質問設計や、親しみやすいキャラクター、封筒型の回答欄など、子どもが参加しやすい仕掛けも工夫しました。短期間での制作ながら、学生の創造性と行政の専門性を活かした協働により、政策と子どもをつなぐ新しい対話の形が生まれました。

参加した総合領域1年生の清永凪海さんは「学校で冊子が配られたとき、子どもたちがすぐに鞄にしまわずに楽しく読んでくれることを目指して制作しました。デザイン性と伝わりやすさのバランスを考えながら制作する中で、難しさと同時に大きなやりがいを感じました。」と活動の感想を語りました。

制作したデザインは、「大津市子ども・若者支援計画」本編にも採用され、政策の周知に貢献しました。

担当：
田口真太郎 講師
藤井俊治 講師
柴﨑寛子 非常勤講師

期間：
2024年4月–2025年3月

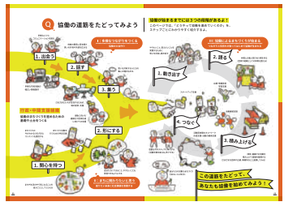
連携先：
大津市子ども未来局
子ども・若者政策課

参加領域：
総合／イラストレーション

参加人数：
3名

参加学生：
井上琴子（総合領域1年生）、
清永凪海（総合領域1年生）、
角田和葉（イラストレーション領域1年生）

「大津市子ども・若者支援計画」本編



高島市市民協働まちづくり推進指針 副読本『協働の輪』

高島市 市民協働のまちづくり推進指針 副読本デザイン

高島市が策定した「市民協働のまちづくり推進指針」の理念を次世代を担う子どもや若者にわかりやすく伝えることを目的に、高島市市民生活部市民協働課と連携して冊子制作に取り組みました。学生と教員は、行政と市民が協力して地域をつくる「協働」の大切さを伝えるための副読本『協働の輪』のデザインと編集を担当。グラフィック表現やレイアウト、色づかいに配慮し、中高生にも親しみやすく伝わる構成にしました。

また、湖西中学校にて出前講座を実施し、地域協働に関する授業とワークショップを通して、副読本の表現内容を中学生とともに検証。生徒からは「まちの課題が身近に感じられた」「未来の高島を考えるきっかけになった」といった声が寄せられました。

参加学生の美術領域2年生の長田もえさんは「より多くの人に直感的に情報を伝えるため、シンプルな線と色で表現することを意識しました。」と語り、同じく美術領域2年生の由井愛理さんは「他者に分かりやすく伝えるためには、制作する自らが情報を理解すること、他者と話し合うことが大切だと感じました。」と振り返りました。

今後も地域のニーズに応じたわかりやすいデザインを通して、市民が協働のまちづくりに参加するきっかけを創出していきます。

湖西中学校での出前講座の様子

担当：
藤井俊治 講師
田口真太郎 講師

期間：
2024年5月–2025年2月

連携先：
高島市市民生活部市民協働課

参加領域：
美術

参加人数：
2名

参加学生：
長田もえ（美術領域2年生）、
由井愛理（美術領域2年生）

共創プロジェクト（受託研究・共同研究・受託事業）

左：メインビジュアルを活用した市内装飾｜右：メインビジュアルを活用したラッピング電車

左：メインビジュアルを活用した市内装飾｜右：メインビジュアルを活用したラッピング電車

「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」大津市メインビジュアルデザイン

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会と連携し、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」大津市メインビジュアルデザインを制作しました。2025年の大津市での大会開催をより広くPRすることを目指し、コンペ方式で学生からデザインを募集。応募されたラフ案をもとに選考された結果、イラストレーション領域3年生の井上歩南さん、山村 凌さんの提案が採用され、本学非常勤講師の柴﨑寛子先生の指導のもと、デザインしました。

遠くからでもわかりやすい色合いと、身体動作を忠実に表した競技イラスト、大津の競技会場や観光名所をモチーフにした背景イラストにより、大津と国スポ・障スポの魅力がひと目で伝わるビジュアルデザインに仕上がりました。主に競技イラストを担当した井上さんは「時間をかけて資料を探し、丁寧に描きました。」と語り、背景イラストを担当した山村さんは「自然と歴史が豊かな大津の魅力が伝わるよう、色合いや配置を工夫しました。」と制作へのこだわりを語りました。

メインビジュアルは広報やノベルティ、市内や競技会場の装飾などに活用されました。

お披露目セレモニーの様子

担当：
柴﨑寛子 非常勤講師
未来社会デザイン共創機構

期間：
2024年6月–2024年11月

連携先：
わたSHIGA輝く国スポ・障スポ
大津市実行委員会
（大津市政策調整部国スポ・障スポ
大会局大会総務課）

参加領域：
イラストレーション

参加人数：
2名

参加学生：
井上歩南
（イラストレーション領域3年生）、
山村 凌
（イラストレーション領域3年生）

展示販売会の様子

アップサイクルリメイク

関西圏の企業が生産する布素材、繊維、アパレル商品の製造工程や歴史、地域との関連性を学び、それらを再利用してリメイク作品を制作するプロジェクト授業です。
制作した作品は、アパレル業界の大量廃棄の問題に着目したアップサイクル企画「ムダモルフォーゼプロジェクト」として発表。阪急百貨店うめだ本店10階「うめだスーク」中央街区にて展示販売会を開催しました。デニムジャケットをバッグに改造したもの、リボンを編み上げたポシェット、和服ドレス、オーガンジーアクセサリーなど多種多様なデザイン商品が並びました。

会場は「美大のアトリエ」をイメージし、学生自ら店頭で作品を制作。学生とお客様の交流が生まれるライブ感のある展示が好評を集めました。モデルやダンサーによるパフォーマンスも実施され、来場者が試着や撮影を楽しめる時間も設けられました。
同会場での展示販売会は3回目。初日で初年度の6倍以上を売り上げました。リピーターや紹介を受けて来店する方も多数みられ、他店舗からの出品依頼が寄せられるなど、大きな反響があり、学生にとって貴重な経験となりました。

担当：
田中秀彦 准教授

期間：
2024年4月–2025年3月

連携先：
エイチ・ツー・オー
リテイリング株式会社
株式会社阪急阪神百貨店

参加領域：
総合／イラストレーション／美術／
情報デザイン／空間デザイン

参加人数：
26名

展示販売会の様子

展示販売会の様子

地域貢献・プロジェクト科目／授業

《湖西線博物館》（堅田駅）

《湖西線博物館》（堅田駅）

湖西線アートプロジェクト

2021年度から始まったJR西日本との共創による「湖西線アートプロジェクト」は、2022年度から総合領域3年生の演習授業と連携しながら継続的に取り組んでいます。2024年度の第4弾では、湖西線開通50周年を記念し、《ノベルゲーム『駅恋』》《湖西線博物館》《湖西線スタンプラリー》の3企画を実施しました。これまで毎年一駅をピックアップして展開してきた本プロジェクトですが、開通50周年を迎えた本年は、湖西線全体を盛り上げるアイデアを検討。学生を中心に、JR西日本職員も交えてディスカッションを重ねました。
《ノベルゲーム『駅恋』》は、構内の駅名看板と会話する恋愛シミュレーションゲームで、駅の歴史や周辺スポットなどの、湖西線をより好きになる情報が盛り込まれています。《湖西線博物館》では、駅構内の空きスペースを活用し、湖西線に関する情報展示ブースを設置。ルーレットやクイズなどの遊びの要素を取り入れ、幅広い年齢層の方々が楽しめるよう演出しました。《湖西線スタンプラリー》では、駅構内に設置するスタンプや景品となる記念品をデザインしました。
本プロジェクトは、アートと地域資源を結びつけ、地域活性化への貢献を目指す実践的な取り組みです。

担当：
宮永真実 講師
未来社会デザイン共創機構

期間：
2024年4月–2025年3月

連携先：
西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）／
湖西線利便性向上プロジェクト
推進協議会

参加領域：
総合

参加人数：
10名

《ノベルゲーム『駅恋』》

《湖西線スタンプラリー》景品

共創プロジェクト（受託研究・共同研究・受託事業）紹介

未来社会デザイン共創機構では、官公庁、一般企業、各種団体から研究費（事業費）を受け入れ、研究・開発を行っています。
地域と連携して、本学の基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」の実現に取り組む活動の一部をご紹介します。

大津市中心市街地における課題共有と解決策模索を通した地域連携強化

担当：田口真太郎 講師／未来社会デザイン共創機構
連携先：株式会社まちづくり大津
期間：2024年4月–2025年3月

ワークショップの様子

大津市中心市街地の課題に向き合い、株式会社まちづくり大津と連携して、全3回のワークショップ「大津百町みらいミーティング」を実施しました。歴史資源の活用、リジェネラティブやアップサイクルな地域づくり、子育て世代の新しいコミュニティ創出をテーマに、専門家の講演と参加者同士の意見交換を行いました。大学と地域住民が協働し、まちづくりの可能性を探る機会となりました。

新ごみ処理施設デザインコンセプト作成ワークショップ

担当：三宅正浩 教授／未来社会デザイン共創機構
連携先：高島市環境部環境センター建設課 ｜ 期間：2024年5月–2024年9月
参加領域：総合／空間デザイン／地域実践 ｜ 参加人数：13名

ワークショップの様子

高島市と連携し、市内に建設予定のごみ処理施設に関する景観およびデザインコンセプトを検討するワークショップを実施しました。建設予定地にてフィールドワークを行い、現地の環境を実際に体感した上で、市職員や地域住民の方と外観デザインや施設のあり方についてディスカッションしました。ワークショップの最後には、田園風景の広がる自然豊かな景観に配慮した外観デザイン、環境学習や交流の場としての活用を提案。地域に根ざした建物や場づくりのデザインアプローチを学びました。

日吉大社 絵馬制作

担当：髙田 学 准教授
連携先：日吉大社 ｜ 期間：2024年6月–2024年12月
参加領域：美術 ｜ 参加人数：1名

大絵馬お披露目の様子

2016年度から美術領域日本画コースの学生が原画制作を担当している日吉大社の干支大絵馬。9年目となる2024年度は、3年生の勢籏澪那さんが「巳（へび）」の原画を制作しました。「縁起物とされる紅白梅や鮮やかな日の出を描き、晴れやかな気持ちや希望、幸福を届けたい」と語る作品は、新年にあわせて日吉大社境内入り口に設置され、参拝客に親しまれました。

アートで広げる子どもの未来プロジェクト

担当：真下武久 准教授／大巻弘美 助手
連絡先：近江八幡市総合政策部文化振興課 ｜ 期間：2024年8月–2024年12月
参加領域：イラストレーション／美術／情報デザイン ｜ 参加人数：6名

ワークショップの様子

2022年度から近江八幡市と連携し、「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」事業として、子どもたちの感性を磨き、豊かな創造性を育む文化芸術を体験する機会づくりに取り組んでいます。2024年度は、近江八幡市内の音楽ホール「文芸セミナリヨ」の外壁アート作品《未来》を活用し、市内の子どもたちを対象にAR技術を取り入れた体験型ワークショップを実施。外壁アートのタイル模様を使用したAR体験や、音楽づくりなどの体験を提供し、デジタルと現実の融合による新たな表現の可能性を子どもたちと共有しました。

「比叡山摩訶不思議伝説ウォーク」イラスト制作＆情報発信

担当：加藤賢治 教授／田中真一郎 教授／深尾 ジャネット メイ 准教授／未来社会デザイン共創機構
連携先：比叡山延暦寺 ｜ 期間：2024年10月–2025年3月
参加領域：情報デザイン ｜ 参加人数：1名

深尾 ジャネット メイ先生（写真左）、中村明日香さん（写真右）

比叡山延暦寺と連携し、観光スタンプラリーイベント「比叡山摩訶不思議伝説ウォーク」のコンテンツ制作と情報発信に取り組みました。イベントの舞台となる比叡山に伝わる摩訶不思議な伝説や逸話をもとに、情報デザイン領域2年生の中村明日香さんがイラスト3種の原画を制作。イベントWEBページの英訳を本学准教授の深尾 ジャネット メイ先生が担当しました。観光客からの注目度の高いイベントに携わり、比叡山延暦寺の歴史や文化に触れる機会の創出に貢献しました。

株式会社たねや お菓子共同開発プロジェクト 詰合せ「近江八景」完成

担当：加藤賢治 教授／田口真太郎 講師／未来社会デザイン共創機構
連携先：株式会社たねや ｜ 期間：2023年4月–2025年3月
参加領域：総合／イラストレーション／美術／情報デザイン／空間デザイン
参加人数：14名

完成したお菓子「近江八景」

和菓子舗 たねやとの共創プロジェクトとして、「近江八景」をテーマにした新作和菓子を開発しました。学生・教職員とたねやの主要スタッフが連携し、フィールドワークやアイデア提案を重ねて、企画に取り組みました。参加学生は、八景それぞれの情景を想像してもらえるよう、各パッケージのカラーなどを提案し、大津の魅力を伝える一助となるべく尽力しました。約1年半の取り組みを経て完成した「近江八景」は、8種のお菓子が楽しめる詰合せとして、2025年3月にオープンした「LAGO大津」にて発売されました。

地域貢献・プロジェクト科目／授業紹介

未来社会デザイン共創機構では、プロジェクト科目等の実践型授業の運営サポートを行っています。
官公庁や民間企業、各種団体、地域からの依頼を授業課題として取り入れ、成果をあげる取り組みの一部をご紹介します。

オフィス・アートプロジェクト

成果発表展示の様子

担当：宇野君平 教授／髙垣英和 特別講師／
小野 哲 特別講師｜連携先：あきわ株式会社／
株式会社フロンティアコンサルティング｜参加人数：20名

空間やプロダクトの新たな価値創造に取り組むあきわ株式会社と連携し、アートによる新たなオフィス空間を提案するプロジェクトです。本学卒業生でオフィス設計の専門家を特別講師として招き、講義や学内外の調査を実施。学生が空間・プロダクトデザインの視点から提案を行い、その成果を学内ギャラリーで展示・発表します。

近江里山フィールドワーク

上仰木地区で田植えをする学生の様子

担当：今森光彦 客員教授／加藤賢治 教授／
大原 歩 非常勤講師／佐藤悦子 特別講師
連携先：仰木自然文化庭園構想 八王寺組
参加人数：29名

里山環境の整備や田植え、稲刈り、脱穀作業など、棚田保全活動を通して、里山における人と自然の関わりについて学びます。フィールドワークを通して、里山での暮らしを深く理解し、未来における自然との関わりについて考察します。最終回には、客員教授である写真家の今森光彦先生が運営する仰木の農園を訪問します。

大津市科学館 プラネタリウムアニメーション制作

完成作品「ペルセポネ」の1カット

担当：高橋登美子 准教授／植村泰之 非常勤講師
連携先：大津市科学館
参加人数：10名

大津市科学館のプラネタリウムで上映する星座の物語をテーマにしたアニメーションを制作します。学生は絵コンテの作成から作画、背景美術の制作、撮影・編集、アフレコ収録といった一連のアニメーション制作の流れを学びます。完成作品は、大津市科学館のプラネタリウムで上映されます。

大津祭曳山連盟公式キャラクター「ちま吉」プロジェクト

大津祭当日の「ちま吉センター」の様子

担当：田中真一郎 教授／加藤賢治 教授
連携先：大津祭ちま吉協議会
参加人数：7名

大津祭曳山連盟の公式キャラクター「ちま吉」を中心に、子どもたちや地域住民向けの活動を展開します。毎年「大津祭を知ってもらう・来てもらう・好きになってもらう」をテーマに、イベント企画やオリジナルグッズの開発など、多岐にわたる活動を実施しています。

大津市歴史博物館 おもちゃのワークショップ

ワークショップの様子

担当：藤井俊治 講師
連携先：大津市歴史博物館
参加人数：35名

大津市歴史博物館と連携して、大津市内の小学生を対象におもちゃづくりのワークショップを開催します。郷土の歴史や文化についての学びや、ものづくりの魅力の体験を通して、子どもたちの創造力を育むことを目指します。この活動を通して、学生たちは社会教育の現場を実践的に学びます。

ソーシャルデザインプロジェクト

防災について考えるワークショップの様子

担当：大草真弓 教授／石川 亮 准教授
連携先：滋賀県知事公室防災危機管理局／
株式会社日映志賀
参加人数：24名

社会課題を身近なものとしてとらえ、デザインの力で解決する方法を探求します。滋賀県危機管理センターとの連携では、防災について考える若者のためのワークショップやカードゲームを制作し、堆肥を生産する株式会社日映滋賀との連携では、循環型社会への取組みを紹介する企画を提案しました。

地域とアート（堅田アートプロジェクト）

学生が考案した地域固有の「食」を振る舞うイベント風景
（メイン会場前）

担当：馬場晋作 准教授／石川 亮 准教授
連携先：堅田浜通り商店街／堅田まちづくり協議会／
永楽自治会／認定特定非営利活動法人
しがNPOセンター／本福寺こども園
参加人数：22名

堅田浜通り商店街を舞台にしたアートプロジェクト「堅田＊はまさんぽ」を開催します。地域調査から始まり、学生と地域住民とが交流する企画の立案から実施までを経験することによって、地域との持続的な関係性のあり方やアートを用いた協働の意義について実践的に学びます。

びわ湖大津館 光のアートプロジェクト

2024年度イルミネーション作品

担当：三宅正浩 教授
連携先：京阪・琵琶湖汽船グループ（琵琶湖汽船株式会社）
参加人数：27名

びわ湖大津館のイングリッシュガーデンに、冬期限定で展示する光のアート作品（イルミネーション）を制作します。作品を多くの方々に楽しんでいただけるよう、リサーチからコンセプトづくり、プレゼンテーション、実際の制作、そして展示設営まで一連のプロセスに取り組みます。

びわ湖ホール オリジナル上演プロジェクト

2024年度パフォーマンスイベント 集合写真

担当：田中秀彦 准教授／大野知英 非常勤講師
連携先：公益財団法人びわ湖芸術文化財団
参加人数：28名

滋賀県立びわ湖ホールで上演されるオリジナルパフォーマンスオペントのスタッフワークを体験します。劇場や舞台裏の見学、そしてプロの舞台美術のスタッフからの講習を通じて、実際の舞台制作の現場を学びます。学生は衣装制作、舞台美術、小道具などの各部門に分かれ、実際の制作活動に携わります。

リデザインプロジェクト

2024年度作品（一部）

担当：田辺由子 教授
連携先：株式会社Comodo LABO
参加人数：16名

繊維メーカーや商社から提供された未使用の素材を活用して、障害者支援施設での製造を前提にした雑貨のデザインとサンプル制作に取り組みます。学生たちが制作した作品はリデザインプロジェクトコンテストに出品され、入賞作品の中から商品化されるものが選ばれます。

ビワイチプラスとコミュニティ

フィールドワークの様子

担当：加藤賢治 教授／石川 亮 准教授
連携先：オーバルオプテックス株式会社／
滋賀県商工観光労働部観光振興局ビワイチ推進室
参加人数：11名

地域企業や行政と連携し、自転車で琵琶湖を一周する「ビワイチ」を題材に、コロナ禍社会の新たな地域振興のあり方を探求します。学生たちは実際にサイクリングを体験し、そこで得られた気づきをもとに、必要なサービスやコンテンツのアイデアを創出し提案します。

CO_2ネットゼロの推進をテーマにしたワークショップ制作

ワークショップの様子

担当：小野真紀子 非常勤講師
連携先：滋賀県総合企画部CO_2ネットゼロ推進課、
公益財団法人淡海環境保全財団、
放課後NPOアフタースクール 他
参加人数：11名

滋賀県SDGs事業 こどなBASE運営事務局と連携し、授業で学んだ脱炭素やCO_2ネットゼロに関する知識を活かし、ワークショップと体験教材を考案します。考案したワークショップは仰木の里東児童クラブのご協力のもとモニタリングも行います。

事業分類概要

研究助成事業

特別研究助成事業

本機構の設立に伴い、本学の研究活動をさらに活性化するべくリニューアルした、学内の「競争的研究資金」です。今日的な社会課題に対する斬新なアイデアやチャレンジ性を有する研究、科学研究費助成事業（科研費）の獲得につながる研究などを奨励します。

科学研究費助成事業

日本学術振興会の科学研究費助成事業（科研費）は、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。本機構では、科研費の管理を行い、独創的・先駆的な研究を支援します。

SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）

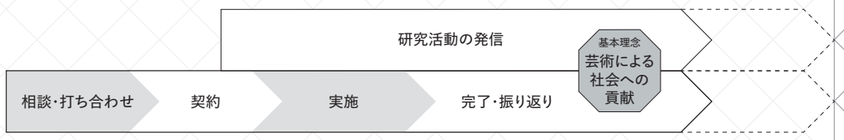
研究活動の活性化を目指し実施する学生特別研究助成金制度です。本学の学生・研究生から枠にとらわれない独創性豊かな研究・制作テーマを募集し、採択テーマには総額100万円の研究・制作資金の助成支援をはじめ相談や指導、マッチングなどの活動支援を行います。

seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）

本学の基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」を具現化する学生の自主的・主体的な活動を支援する制度です。1件あたり最大5万円の助成支援、活動へのアドバイスなどのサポートを行います。

共創プロジェクト 受託研究・共同研究・受託事業

官公庁や民間企業、各種団体から研究費（事業費）を受け入れ、研究・開発を行います。滋賀県唯一の芸術大学であるリソースを活かして、地域の課題解決や芸術文化の発展に向けた様々な企画を積極的に提案。地域と連携して、本学の基本理念（教育理念）である「芸術による社会への貢献」の実現に取り組みます。



連携内容について事前の打ち合わせ
- 実施目的
- 実施体制・実施方法
- 期間／予算見積もり
- 成果予測
- その他事務手続き 等

契約書等の締結
- 知的財産権の取扱い
- 成果の公表時期
- 機密保持に関する取り決め等

目的や規模に応じた体制で計画を推進
- ガイダンス
- 調査 ・研究・制作 等
- プレゼンテーション
- 活動発信
- 成果物等の完成

完了時に成果を報告
- 研究成果報告書の作成
- 研究活動の内容や効果を振り返り
- その他追加契約等の締結

次の研究へつなげる
- 研究の継続
- 新たな研究テーマの発見

地域貢献・プロジェクト科目／授業

本学の教育カリキュラムの一環として、官公庁や民間企業、各種団体、地域からの依頼や共同研究を授業課題に取り入れ単位認定を行う取り組みです。多くの成果物は実際に商品化されるなど、デザインやアートが実社会にどう関わっていくかを実践的に学ぶ機会となっています。本機構では運営管理・活動支援を行います。

2024年度 事業一覧

*連携先の名称・教職員の職位・参加学生の学年は2024年度当時の情報です。

分類		プロジェクト名	担当	期間	主な連携先	参加領域	参加人数
研究助成事業	特別研究助成事業	「自然学｜SHIZENGAKU」プロジェクト以降の岡田修二研究成果報告一覧としての冊子の発行	岡田修二 教授	7月–3月	-	-	-
		教育改革のドキュメント化とその普及：成安造形大学初年次プログラム「スタディスキル実習」の評価と展望	田口真太郎 講師 藤井俊治 講師	7月–3月	-	-	-
	科学研究費助成事業	ジェンダーインクルーシブなプログラミング教育教材の開発と普及	真下武久 准教授	2021年–2024年	同志社女子大学 有賀妙子 教授	-	-
		モニタリング手帳の活用による対話型糖尿病医療に向けたアクションリサーチ	由井真波 客員教授	2023年–2027年	日本赤十字看護大学 細野知子 准教授	-	-
	SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）	輪郭が変わりうるほどの激情を衣服で表現する／大宅歩音（空間デザイン領域4年生）	未来社会デザイン共創機構	7月–2025年4月	-	空間デザイン	1
		彫刻を参考とした衣服が与える拘束性と解放性の研究／坪田秀人（空間デザイン領域4年生）	未来社会デザイン共創機構	7月–2025年4月	-	空間デザイン	1
		丹後ちりめんの可能性の追求／勢籏澪那（美術領域3年生）	未来社会デザイン共創機構	7月–2025年4月	-	美術	1
		成安マルシェプロジェクト／水田有咲（総合領域4年生） 山﨑宥花（総合領域4年生）	未来社会デザイン共創機構	7月–2025年4月	-	総合	2
		びわこ文化公園の魅力の控えめな訴求方法とは／中村文乃（情報デザイン領域4年生）	未来社会デザイン共創機構	7月–2025年4月	-	情報デザイン	1
	seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）	べじたぶるあーと／ベジっ湖 代表：長﨑由侑（地域実践領域2年生）	未来社会デザイン共創機構	8月–2025年4月	-	地域実践	3
		京都府宇治市に大量発生するトビケラについて／ときめきトビケラプ 代表：山本 桜（総合領域3年生）	未来社会デザイン共創機構	11月–2025年4月	-	総合、情報デザイン、地域実践	10
		暮らしの考察、暮らしの記録／清水あかり（地域実践領域4年生）	未来社会デザイン共創機構	11月–2025年4月	-	地域実践	1
		ベンチを作成し、学内に設置するワークショップ／ベンチ24 代表：杉田 柾（空間デザイン領域2年生）	未来社会デザイン共創機構	11月–2025年4月	-	空間デザイン	4
		滋賀県防災の日のためのワークショップ／BOSSA & ESCAPE! to safety 代表：杉本光莉（美術領域3年生）	未来社会デザイン共創機構	12月–2025年4月	滋賀県知事公室 防災危機管理局	美術、情報デザイン、イラストレーション	9
		多世代との筆談式対話型鑑賞／高橋七生（美術領域2年生）	未来社会デザイン共創機構	12月–2025年4月	-	美術	1
共創プロジェクト（受託研究・共同研究・受託事業）		株式会社たねや お菓子共同開発プロジェクト 詰合せ「近江八景」完成	加藤賢治 教授 田口真太郎 講師 未来社会デザイン共創機構	2023年4月–3月	株式会社たねや	総合、イラストレーション、美術、情報デザイン、空間デザイン	14
		カタルーニャの文化「サン・ジョルディの日」を伝えるイベント企画	由井真波 客員教授 未来社会デザイン共創機構	4月–5月	カタルーニャ州政府日本事務所、team ViVida	総合、イラストレーション、情報デザイン	4
		「動画で防ぐ！若者の消費トラブル啓発動画コンテスト」ポスター・チラシデザイン	未来社会デザイン共創機構	4月–5月	滋賀県消費者生活センター	-	-
		三尾神社のうさぎ像のリデザインと製作	佐野耕平 准教授 未来社会デザイン共創機構	4月–5月	三尾神社	空間デザイン	2
		アートで照らす医療と介護の未来プロジェクト	田口真太郎 講師 柴﨑寛子 非常勤講師 未来社会デザイン共創機構	4月–3月	琵琶湖大橋病院グループ（医療法人弘英会）	総合、イラストレーション、空間デザイン	5
		いちご農家の新規事業のためのキッチンカー装飾のデザインと制作	未来社会デザイン共創機構	4月–3月	Sparkle	イラストレーション、美術、空間デザイン	5
		大津市 子ども・若者支援計画「こどもパブリックコメント」冊子デザイン	田口真太郎 講師 藤井俊治 講師	4月–3月	大津市子ども未来局 子ども・若者政策課	総合、イラストレーション	3
		大津市中心市街地における課題共有と解決策模索を通した地域連携強化	田口真太郎 講師 未来社会デザイン共創機構	4月–3月	株式会社まちづくり大津	-	-
		幼稚園児との日用品を応用した造形あそびワークショップ	藤井俊治 講師	4月–3月	本福寺こども園	総合、イラストレーション	5
		高島市 市民協働のまちづくり推進指針副読本デザイン	藤井俊治 講師 田口真太郎 講師	5月–2月	高島市市民生活部 市民協働課	美術	2
		新ごみ処理施設デザインコンセプト作成ワークショップ	三宅正浩 教授 未来社会デザイン共創機構	5月–9月	高島市環境部 環境センター建設課	総合、空間デザイン、地域実践	13
		耐震啓発動画用マスコットキャラクター等デザイン制作	高橋登美子 教授	5月–9月	滋賀県土木交通部建築課 建築指導室住まいの安全対策係	イラストレーション	9
		「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」大津市メインビジュアルデザイン	柴﨑寛子 非常勤講師 未来社会デザイン共創機構	6月–11月	わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会（大津市政策調整部 国スポ・障スポ大会局 大会総務課）	イラストレーション	2
		日吉大社 絵馬制作	高田 学 准教授	6月–12月	日吉大社	美術	1

共創プロジェクト （受託研究・共同研究・受託事業）	子ども食堂わいがやキッチン しゅくだいワークショップ	藤井俊治 講師	7月–8月	NPO法人はた楽きの里	情報デザイン、 地域実践	2
	アートで広げる子どもの未来プロジェクト	真下武久 准教授 大巻弘美 助手	8月–12月	近江八幡市総合政策部 文化振興課	イラストレーション、 美術、情報デザイン	6
	「しがわーくフェスタ2024」ラジオ企画	未来社会デザイン共創機構	10月–11月	滋賀県中小企業団体中央会	イラストレーション、 空間デザイン、地域実践	3
	「比叡山摩訶不思議伝説ウォーク」イラスト制作	加藤賢治 教授 田中真一郎 教授 未来社会デザイン共創機構	10月–2月	比叡山延暦寺	情報デザイン	1
	「比叡山摩訶不思議伝説ウォーク」 WEBページ英訳	深尾 ジャネット メイ准教授 加藤賢治 教授 未来社会デザイン共創機構	2月–3月	比叡山延暦寺	-	-
	令和6年度朽木住民福祉活動計画 パンフレットデザイン制作	柴﨑寛子 非常勤講師／ 未来社会デザイン共創機構	2月–3月	滋賀県琵琶湖環境化学 研究センター	総合	1
地域貢献・プロジェクト科目	よはのつきライトアッププロジェクト	三宅正浩 教授 立神まさ子 非常勤講師	4月–11月	株式会社海空	総合、イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン	22
	オフィス・アートプロジェクト	宇野君平 教授 高垣英和 特別講師 小野 哲 特別講師	4月–2月	あきわ株式会社、 株式会社フロンティア コンサルティング	総合、イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、地域実践	20
	アップサイクルリメイク	田中秀彦 准教授	4月–3月	エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社、 株式会社阪急阪神百貨店	総合、イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン	26
	近江里山フィールドワーク	加藤賢治 教授 今森光彦 客員教授 大原 歩 非常勤講師	4月–3月	仰木自然文化庭園構想 八王寺組	総合、イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、地域実践	29
	大津祭曳山連盟公式キャラクター 「ちま吉」プロジェクト	加藤賢治 教授 田中真一郎 教授	4月–3月	大津祭ちま吉協議会	総合、イラストレーション、 情報デザイン、 空間デザイン	7
	大津市歴史博物館 おもちゃのワークショップ	藤井俊治 講師	4月–3月	大津市歴史博物館	総合、イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、地域実践	35
	ソーシャルデザインプロジェクト	大草真弓 教授 石川 亮 准教授	4月–3月	滋賀県知事公室防災危機 管理局、株式会社日映志賀	イラストレーション、 美術、情報デザイン	24
	地域とアート（堅田アートプロジェクト）	馬場晋作 准教授 石川 亮 准教授	4月–3月	堅田浜通り商店街、 堅田まちづくり協議会、 永楽自治会、 認定特定非営利活動法人 しがNPOセンター、 本福寺こども園	総合、イラストレーション、 美術、地域実践	22
	びわ湖大津館 光のアートプロジェクト	三宅正浩 教授	4月–3月	京阪・琵琶湖汽船グループ （琵琶湖汽船株式会社）	総合、イラストレーション、 情報デザイン、 空間デザイン、地域実践	27
	びわ湖ホール オリジナル上演プロジェクト	田中秀彦 准教授	4月–3月	公益財団法人 びわ湖芸術文化財団	総合、イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、地域実践	28
	リデザインプロジェクト	田辺由子 教授	4月–3月	株式会社Comodo LABO	総合、イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、地域実践	16
	ビワイチプラスとコミュニティ	加藤賢治 教授 石川 亮 准教授	10月–3月	オーパルオプテックス 株式会社、滋賀県商工観光 労働部観光振興局ビワイチ 推進室	総合、イラストレーション、 地域実践	11
授業	大津市科学館 プラネタリウムアニメーション制作	高橋登美子 准教授 植村泰之 非常勤講師	4月–3月	大津市科学館	イラストレーション、 情報デザイン	10
	CO_2ネットゼロの推進をテーマにした ワークショップ制作	小野真紀子 非常勤講師	4月–3月	滋賀県総合企画部CO_2 ネットゼロ推進課、 公益財団法人淡海環境 保全財団、放課後NPO アフタースクール、 トヨタモビリティパーツ 株式会社滋賀支社、 仰木の里東児童クラブ	総合、情報デザイン	11
	湖西線アートプロジェクト	宮永真実 講師 未来社会デザイン共創機構	4月–3月	西日本旅客鉄道株式会社 （JR西日本）、 湖西線利便性向上 プロジェクト推進協議会	総合	10
	日映志賀 商品パンフレット制作	大草真弓 教授	10月-3月	株式会社日映志賀	情報デザイン	16

その他	祇園祭山鉾装飾品等専門委員会 委員	小嵜善通 教授	1995年–	-	-	-
	大津市堅田少年センター 運営協議会 委員	加藤賢治 教授	2010年–	-	-	-
	公益財団法人滋賀県文化財保護協会 監事	小嵜善通 教授	2012年–	-	-	-
	滋賀県文化財保護審議会 委員	小嵜善通 教授	2012年–	-	-	-
	京都御所障壁画修理 指導	小嵜善通 教授	2014年–	-	-	-
	京都市元離宮二条城保存整備委員会 委員	小嵜善通 教授	2014年–	-	-	-
	大津市湖都文化実行委員会 文芸誌 「湖都の文学」編集委員	石川 亮 准教授	2015年–	-	-	-
	草津市景観審議会 委員	西尾幸子 准教授	2015年–	-	-	-
	滋賀県文化・経済フォーラム 幹事	加藤賢治 教授	2015年–	-	-	-
	京都市元離宮二条城二之丸御殿障壁画模写 事業 指導	小嵜善通 教授	2016年–	-	-	-
	比良比叡トレイル協議会 委員	加藤賢治 教授	2016年–	-	-	-
	大津市湖都文化実行委員会 文芸誌 「湖都の文学」編集委員	加藤賢治 教授	2016年–	-	-	-
	一般社団法人 日本学生相談学会 理事／ 学会誌編集委員長	山川裕樹 教授	2016年–	-	-	-
	栗東市景観百年委員会 委員	藤井俊治 講師	2016年–	-	-	-
	高島市文化財保護審議会 委員	加藤賢治 教授	2017年–	-	-	-
	湖南市景観計画アドバイザー	石川 亮 准教授	2018年–	-	-	-
	滋賀県文化賞等選考懇話会 委員	千速敏男 教授	2018年–	-	-	-
	滋賀県立信楽高等学校 学校評議員	藤井俊治 講師	2019年–	-	-	-
	彦根市文化財審議会 委員	小嵜善通 教授	2019年–	-	-	-
	文化庁文化審議会文化財部会専門調査会 委員	小嵜善通 教授	2019年–	-		
	滋賀県立栗東高等学校 学校運営協議会 委員	金澤 徹 教授	2020年–	-	-	-
	大津市歴史的風致維持向上協議会 委員	加藤賢治 教授	2020年–	-	-	-
	一般社団法人日本心理臨床学会 学会誌 編集委員	山川裕樹 教授	2020年–	-	-	-
	大津市湖都文化推進審議会 委員	小嵜善通 教授	2021年–	-	-	-
	金沢城二の丸御殿 復元整備専門委員会 委員	小嵜善通 教授	2021年–	-	-	-
	京都市京セラ美術館 美術学芸アドバイザー	中谷至宏 教授	2021年–	-	-	-
	元離宮二条城事務所 美術学芸アドバイザー	中谷至宏 教授	2021年–	-	-	-
	公益財団法人大津市国際親善協会 評議員	小嵜善通 教授	2020年–	-	-	-
	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 理事	小嵜善通 教授	2021年–	-	-	-
	国宝延暦寺根本中堂ほか1棟保存修理事業 専門委員会 委員	小嵜善通 教授	2021年–	-	-	-
	第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者 スポーツ大会 大津市準備委員会 参与	小嵜善通 教授	2021年–	-	-	-
	大津市中学校部活動地域移行検討懇話会 委員	藤井俊治 講師	2022年–	-	-	-
	滋賀県立北大津高等学校/滋賀県立北大津高等 養護学校 学校評議員	石川 亮 准教授	2022年–	-	-	-
	大津市景観審議会 委員	田口真太郎 講師	2022年–	-	-	-
	日野町人材育成アドバイザー	田口真太郎 講師	2022年–	-	-	-
	美の糸口アートにどぼん！実行委員会 委員	石川 亮 准教授	2022年–	-	-	-
	草津市史跡草津宿本陣整備懇話会 委員	小嵜善通 教授	2022年–	-	-	-
	マザーレイクゴールズ学術フォーラム 学術委員	加藤賢治 教授	2022年–	-	-	-
	滋賀県商工観光労働部試験研究機関 研究外部評価会議 委員	石川泰史 教授	2022年–	-	-	-
	大津市歴史博物館協議会 副会長	宇野君平 教授	2022年–	-	-	-
	滋賀県立美術館協議会 委員	馬場晋作 准教授	2022年–	-	-	-
	第4回PATinKyoto京都版画トリエンナーレ 実行委員長	長尾浩幸 教授	2023年–	-	-	-
	滋賀県立信楽高等学校 しがクリエイター12プロジェクト 委員	藤井俊治 講師	2023年–	-	-	-
	滋賀県立守山北高等学校 コーディネーター	田口真太郎 講師	2023年–	-	-	-
	株式会社しがぎん経済文化センター KEIBUN文化講座 講師	中谷至宏 教授	4月–3月	-	-	-
	滋賀県子ども若者審議会 臨時委員	田口真太郎 講師	4月–3月	-	-	-
	大津市社会福祉審議会 臨時委員	田口真太郎 講師	4月–3月	-	-	-
	大津市子ども・若者政策課アドバイザー	田口真太郎 講師	4月–3月	-	-	-
	大津市歴史的風致維持向上協議会委員	田口真太郎 講師	10月–	-	-	-
	滋賀県消費生活センター 啓発動画コンテスト 審査員	高橋登美子 教授	11月	-	-	-
	第2回茨木映像芸術祭 審査員	水野勝規 教授	11月	-	-	-
	近江八幡市有機農業産地づくり検討会委員	田口真太郎 講師	12月–	-	-	-

おわりに

本学は「芸術による社会への貢献」を基本理念（教育理念）としています。このことを標榜する文面の冒頭には「私たち成安造形大学は、芸術分野における真摯な教育と研究を通して広く社会に貢献する。独自の実践的学士課程教育によって、発想力・提案力・技術力に優れた清廉な人材を輩出する。そして、誇るべき永い伝統を全員が胸に抱き、新しき名門を目指す。」と書かれています。

この研究・連携活動事例集を眺めますと、本機構が所管するプロジェクトは研究助成事業や共創プロジェクトなど多岐にわたり、滋賀県を中心に、官公庁や民間企業、各種団体、個人等の活動と、本学学生、教員の教育・研究を結ぶ役割の重要性を確認することができます。

その中でも、基本理念のもと長年にわたって開講してきた地域貢献・プロジェクト科目の存在は、大変重要であると認識しています。毎年地域社会やコミュニティの重要性を理解するための基礎科目をはじめ約10種類の授業が開講され、特にプロジェクト科目は年間延べ250名（全学生の約3割）を超える学生が受講しています。

学生たちは、学外の団体と共創し、地域の課題を考え、発見して提案するという実践的な授業を通して、プロジェクトの背景理解、特に現代社会の諸相やコミュニティに関することを学びます。そして学内外の関係者と協働し、課題解決のための可能性を模索し、実践します。その上で、今後のプロジェクトの発展・展開を念頭に、未来に向けての提言・提案の発端を導き出し、自分自身の社会とのつながりを改めて自覚します。この活動を通して、成功と失敗を経験し、実践力、創造力、課題解決力、協働力、主体的行動力をつけていくのです。

本学学生に向けて

気候変動により多発する自然災害、経済活動の停滞や不安定な国際情勢など、不透明な未来社会をどのように生き抜くかが今問われています。未来の予測やグローバルな社会情勢を知ることも大事なことですが、今一度、自分の足元を見つめ直すことも大切です。未来社会は、地域（地方）の時代とも言われています。自分が地域でどのようにより良く暮らすのか。学内の学びだけでなく、共創プロジェクトやその他の取り組みに積極的に参加して、アートやデザインなど専門領域で培った学びを在学中に学外で実践してみてください。その経験は必ず自身の将来に活かされるはずです。

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 副機構長
加藤賢治

Co-Creation+
成安造形大学 未来社会デザイン共創機構
2024年度 研究・連携活動事例集

編集・発行：
学校法人京都成安学園
成安造形大学 未来社会デザイン共創機構

〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1
tel: 077-574-2111（代表）｜077-574-2118（直）
fax: 077-574-2120
mail: mirai@seian.ac.jp

成安造形大学ウェブサイト：
https://www.seian.ac.jp

未来社会デザイン共創機構Facebook：
https://www.facebook.com/seianmirai

未来社会デザイン共創機構Instagram：
https://www.instagram.com/seian_mirai

未来社会デザイン共創機構X：
https://x.com/seian_mirai

成安造形大学 紀要：
https://www.seian.ac.jp/attached/kiyo/

発行日：2025年11月1日

アートディレクション／デザイン：塩谷啓悟
ISSN　2758-5697

成安造形大学　【　　】